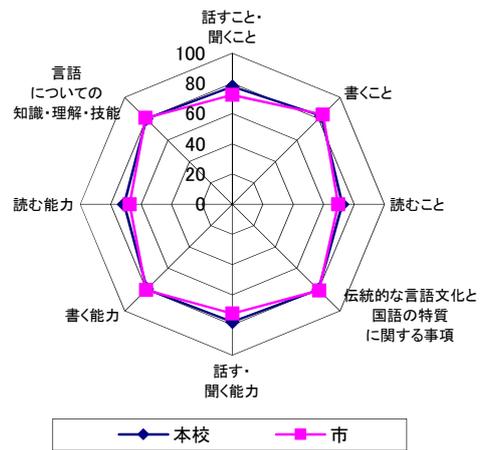


宇都宮市立河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	77.9	72.4	70.5
	書くこと	82.6	84.1	70.0
	読むこと	72.2	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.0	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	77.9	72.4	70.5
	書く能力	79.5	80.2	68.0
	読む能力	71.1	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	80.1	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

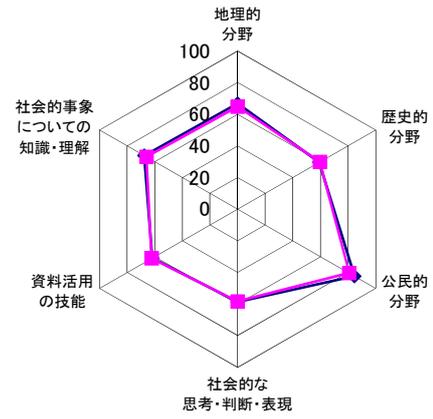
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いの内容を聞き取るという全ての課題について、市の平均を上回った。特に「話の論理的な展開に注意して聞き、意見を述べること」と「資料を活用した話し方の工夫をとらえること」については、市の平均を大きく上回った。</p> <p>●話し合いの内容を聞き取る課題の中で、「相手の考えを尊重しながら、司会者としての役割を果たすこと」の課題では、市の平均との差が少なかった。</p>	<p>小グループでの話し合いの場면을意図的に増やし、司会者として役割を体験する場面を増やす。また、話し合いにおける司会者の役割のマニュアル等を作成し、指導に生かしていきたい。</p>
書くこと	<p>○書くことに関しては、「読み取った内容を明確にして書く」、「自分の考えを書く」の課題において、市の平均を上回った。</p> <p>●「指定された字数で書く」、「3段落構成で書く」、「自分の考えを明確にして書く」の課題では、市の平均を下回った。</p>	<p>自分の考えや感想、筆者の主張等について、字数を指定して文章を書く機会を増やし、様々な課題に対応できるよう指導していきたい。</p>
読むこと	<p>○文学作品の内容を読み取る全ての課題について、市の平均を上回った。説明文の内容を読み取る課題については、「文章の展開に即して内容をとらえること」「文章の構成や展開をとらえること」についての課題は、市の平均を上回った。</p> <p>●説明文の内容を読み取る課題、「文章の展開をとらえて、その内容を表すグラフを選ぶ」という課題では、市の平均を1.1ポイント下回った。</p>	<p>説明的文章では、文章の展開・構成に注意して内容を読み解いていくだけでなく、読み解いた内容を発信する活動をとらえて、より深い内容読み解を指導していきたい。また、文学作品の読み解については、登場人物の心情や情景描写をとらえながら、表現の特徴や表現の工夫についても指導していきたい。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○文法・語句に関する知識(対義語・品詞分類・敬語)については、市の平均と同様もしくは市の平均を上回った。</p> <p>●8問の漢字の読み書きの課題は、5問は市の平均を上回ったものの、3問の課題は、その平均を下回った。また、「用言の活用」の理解では市の平均を9.6ポイント下回った。</p>	<p>漢字の読み書きや文法の理解の定着を図るため、定期的な小テストを実施していきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	66.8	64.8	54.5
	歴史的分野	59.2	59.7	52.2
	公民的分野	84.6	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.6	58.3	49.5
	資料活用の技能	61.8	62.2	53.1
	社会的な事象についての知識・理解	67.6	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

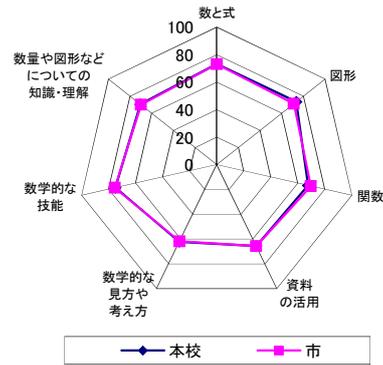
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○市の平均正答率を2ポイント上回った。</p> <p>○「世界から見た日本の姿」からの社会的な事象についての知識・理解を問う問題で、市の平均正答率を11.3ポイント上回るなど、高い正答率を得られた。</p> <p>●「地球の姿」からの資料活用の技能を問う問題では、市の平均正答率を最大で8.5ポイント下回るなど、内容によって十分でなかった部分が見られた。</p>	<p>社会的な事象についての知識・理解に関する問題では、比較的正答率が高い傾向が見られたが、資料を活用して判断する問題で、正答率が低かった。多くの資料に触れながら、資料活用問題の演習を重ねたい。</p>
歴史的分野	<p>○「近世の日本」からの社会的な事象についての知識・理解を問う問題で、市の平均正答率を最大で5.2ポイント上回った。</p> <p>●市の平均正答率を0.5ポイント下回った。</p> <p>●「古代までの日本」の内容からの藤原道長の政治について問う問題では、市の平均正答率を9.6ポイント下回るなど、理解不足がうかがえた。</p>	<p>社会的な思考・判断・表現に関する問題では、記述式問題を中心に指導を重ね、今後も能力の向上を図りたい。また、資料活用についても、演習を重ねたい。</p> <p>歴史的な流れを把握させながら、政治や文化の特色を理解させるようにしていきたい。</p>
公民的分野	<p>○公民の全ての問題で市の平均正答率を上回った。特に半分の問題では9割以上の正答率であり、ほとんどの問題で高い正答率が見られた。</p> <p>●効率と公正の判断基準についての問題で、正答率が64.9%だったので、理解が十分でなかった点がうかがえた。</p>	<p>社会的な思考・判断・表現に関する問題では、繰り返し解いたり、記述式問題を多く取り入れたりしながら、多方向・多面的に考えさせるようにしていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.2	73.0	67.5
	図形	73.4	71.1	59.5
	関数	67.5	69.7	60.0
	資料の活用	65.6	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	62.2	61.8	49.6
	数学的な技能	75.0	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	70.5	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好的な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

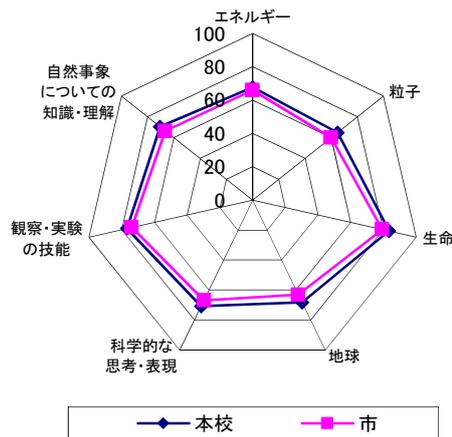
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○領域全体としては、市の平均正答率とほぼ同じ状況である。</p> <p>○「2次方程式を利用して、文章問題を解くことができる」では市の平均正答率より9.6ポイント、「$(x+m)^2=n$の形の2次方程式を解くことができる」では8.3ポイント、「単項式の乗除の混じった計算ができる」では3.2ポイント、「与えられた文章題に対して、適切な連立方程式を立式することができる」では3.1ポイント高い。</p> <p>●「分母を有理化し、根号を含む式の減法ができる」では市の平均正答率より7.2ポイント、「平方根の大小について理解している」では5.8ポイントと、市の平均正答率より5ポイント以上低い。</p>	<p>基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、文字式の計算や因数分解、根号を含む計算、方程式になると正答率が下がり、理解が不十分な部分が出てくる。知識として定着しておらず、問題で迷いが生じ間違えるということが考えられる。また、文章問題の正答率も低いため、今後はワークやプリント学習だけでなく、計算方法や計算順を説明させるような時間を設け、筋道を立てた考え方の育成や言語活動の向上につなげる授業改善、文章から必要な情報を読み取る能力も重要であるため、他教科との連携を図っていきたい。</p>
図形	<p>○領域全体としては、市の平均正答率と比べて2.3ポイント高い。</p> <p>○「証明の必要性和意味を理解している」では市の平均正答率より8.5ポイント、「三角形の高さを表す線分の作図方法について理解している」では4.1ポイント高い。</p> <p>●「与えられたことから、正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させることができる」では市の平均正答率より2.1ポイント低い。</p>	<p>知識・理解や技能の分野においては、おおむね理解できており、正答率も高い。しかし、三角形の合同条件や相似条件を利用して筋道を立てて論理的に説明する問題や作図に関する問題においては苦手意識が強く、自分なりに理解できるまで深く考えようとする生徒が少ない。今後は、生徒の理解度に応じた学習プリントの作成や、発展的な証明や作図の問題に取り組む時間を設けるなど、応用力が身に付く授業展開の工夫が必要である。</p>
関数	<p>○「1組のx, yの値から、関数$y=ax^2$の式を立式することができる」では市の平均正答率より2.8ポイント高い。</p> <p>●領域全体としては、市の平均正答率と比べて2.2ポイント低い。</p> <p>●「関数$y=ax^2$における変化の割合を求めることができる」では市の平均正答率より5.0ポイント、「問題文を理解し、A店で10枚印刷したときにかかる費用を求めることができる」では3.9ポイント、「グラフをどのように読み取ればよいかを説明し、印刷枚数ごとに最も安い店を判断することができる」では3.8ポイント低い。</p>	<p>関数は4つの領域の中で最も苦手意識が強い。特に「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」が弱く、「関数とは何か」、「比例と1次関数の違い」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。そこで今後は、知識としての定着を図ることはもちろん、数学的用語や自分の求めたものが何を表しどんな意味をもつかなどを考え、説明できるようにしたい。また、文章問題では、答を出すために何が逆算して考えられるような力が身に付く授業展開(ペア学習を取り入れたり記述したり)の工夫が必要である。生徒同士で学び合うことをとおして苦手意識の克服につなげていきたい。</p>
資料の活用	<p>○領域全体としては、市の平均正答率と同じ状況である。</p> <p>○「7個の球から1個を取り出すときの確率を求める」では市の平均正答率より2.8ポイント、「度数分布表から平均値を求める式を選ぶことができる」では2.3ポイント高い。</p> <p>●「4枚のカードから2枚を取り出して2けたの整数をつくるときの確率を求めることができる」では市の平均正答率より4.9ポイント、「問題解決のために、中央値を用いることを判断することができる」では1.4ポイント低い。</p>	<p>各学年の最後の単元であり、他の単元との関わりも多くないため、授業中に繰り返し復習する機会が少なく、数多くの問題に取り組む経験が計算分野に比べて圧倒的に少ないのが現状である。今後は、数学の授業のために用意された問題だけに取り組むのではなく、ワークやプリント学習などをとおして解く機会を増やし、度数分布表の作成や読み取り、確率の学習のよさなどを実感していく授業展開を試みていきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	67.8	66.1	56.4
	粒子	64.9	60.0	57.4
	生命	83.5	79.4	75.2
	地球	68.3	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	70.8	66.8	57.2
	観察・実験の技能	76.8	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	70.6	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

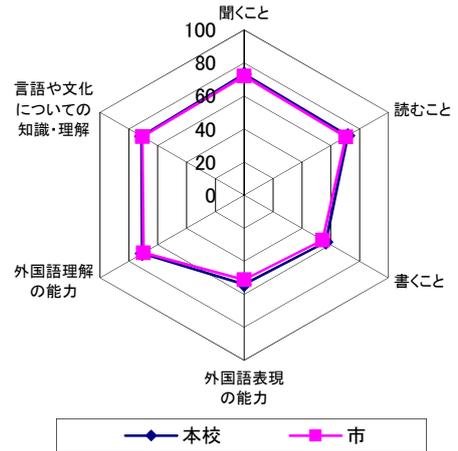
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○音の性質に対する理解度は高く、正答率は75.7%であった。</p> <p>○電流と磁界に対する理解度は市の平均よりも4.2ポイント高く、正答率58.2%だった。</p> <p>●物体のいろいろな運動についての理解度は市の平均よりも0.1ポイント低い、正答率70.2%だった。</p>	<p>実験で起こった事象について理解し、規則性を見出すことを苦手とする傾向が見られる。実験の考察や問題演習の際に焦らず時間をとり、自分で考える力を身に付けさせたい。</p> <p>班別活動では、理科の得意な生徒に思考を委ね、自分で考えることをやめてしまう生徒も見受けられるため、まずは自力で考えられるような工夫をしたい。</p>
粒子	<p>○「物質の状態変化」、「化学変化」、「水溶液とイオン」のすべてについて市の平均を4～6ポイント上回る正答率だった。</p> <p>○化学変化については、正答率80.1%と非常に高い理解を示していた。</p> <p>●物質の状態変化については、市の平均こそ超えているものの、正答率45.6%と低い正答率だった。</p>	<p>イオンの正答率、物質の状態変化の理解度が低いところから、粒子の概念の理解が乏しいことが読み取れる。授業の中で、粒子でできていることを繰り返し触れることに加え、今後導入予定のタブレット端末などを駆使し、映像資料で理解を深めるよう支援したい。</p>
生命	<p>○「植物のからだのつくりとはたらき」、「動物のからだのつくりとはたらき」、「生物の成長と生殖」のすべてについて市の平均を1～5ポイント上回る正答率だった。</p> <p>●花のつくりについて、「がく」と回答する小問の正答率は、市の平均を3.7ポイント下回る72.8%であった。</p>	<p>植物や動物の重要な特徴を理解し、実験操作の意味や結果から考える力は身に付いてきたが、重要語句の暗記は疎かになっているように感じる。ノートに何度も書く、口頭で聞くなど何度も授業中に取り上げることで定着させたい。</p> <p>また、今後もさらに科学的なものの見方や考え方を養うために実験や観察を中心に、生徒が主体的に考える場を設定できるよう工夫したい。</p>
地球	<p>○「地層」、「日本の気象」については、市の平均を4～6ポイント上回る正答率だった</p> <p>●土砂の大きさから、土砂が堆積したときの海面の変化を推測する問題の正答率は、市の平均を0.6ポイント下回り、73.7%だった</p>	<p>全国的に苦手とする生徒が多い、ボーリング図から地層の傾きを推測する問題については、問題演習を重ねた成果から、理解度の向上が見られた。</p> <p>実物で実験できない内容が多い分野であるため、モデル実験を取り入れたり、丁寧な問題演習を繰り返すことで、別の内容についても理解が定着するよう指導していきたい。</p>

宇都宮市立河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	73.2	72.2	67.8
	読むこと	71.8	70.5	70.4
	書くこと	56.6	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	54.0	51.2	49.2
	外国語理解の能力	70.9	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	71.3	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○市の平均正答率を1.0ポイント上回っている。 ●「行った手段をたずねられる」問題や、長めの対話で時間を答える問題では、市の平均正答率を下回っていた。	リスニングの問題では、言語の使用場面をよく把握した上で、英語を聞き取り、状況を理解して聞き取るようにしたい。 また音読指導をととして、英文の発音に慣れ、語と語の音のつながりや聞きとりにくい弱い音があることを理解し、聞き取るよう指導していきたい。
読むこと	○市の平均正答率を1.3ポイント上回っている。 ●「継続を表す現在完了」の基本的な文法が定着していないものがあった。 ●英文と表を読み、適切なものを選ぶ問題では、市の平均正答率を下回っていた。	表や図と併せて英文を読む問題のように、英文を読むだけでなく、情報を整理しながら、表や図を読み取ることができるように教科書の写真やイラストにも注目し、英文を読むように指導していきたい。 また、他教科と連携し、表やグラフの読み取りについての指導も行っていきたい。
書くこと	平均正答率を上回った問題と、下回った問題がはっきりとしていた。しかし、全体として、 ○市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。 ○自分自身に関する内容を書く英作文では、市の平均正答率を大きく上回っていた。 ●単語の並べかえによる英作文では、市の平均正答率を下回っている問題が多かった。	単語の並べかえや、与えられた情報をもとに書くといった基本的な文法を使った英作文の練習が必要である。新出の文法の学習の最後に、その言語材料を用いて、英文を書く練習をすることで、学習内容の定着を図り、応用力を高めたい。 また、自分自身に関する内容の英作文でも、よりよい内容を書くことができるよう、日ごろから練習を重ねていきたい。

宇都宮市立河内中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○友達との関わりをとおして、自ら考え、理解を深めようとする態度を育成する。	○少人数での学び合いやノート、プリントを活用したグループ活動をとおして、考えを深めたり広げたりできるようにする。また、学びに応じたグループ編成を行い、生徒の意欲向上に努める。	○学習内容定着度調査における「授業への取り組みについて」の項目では、概ね肯定的な回答が多かった。特に、「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」では、肯定的な回答がおよそ8割であった。 ■「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」の項目では、肯定的な回答が62.5%と昨年度より5ポイント低く、今後も継続的な指導を行っていく。
○授業の中に言語活動を取り入れ、自らの言葉で伝える活動をとおして、考える力を育成する。	○一人一授業公開を行い、職員間での学び合いの機会を設ける。また、年4回の校内研修サポート事業を活用して、言語活動の充実について検討し指導を受ける。	○学習内容定着度調査における「学習に対する気持ちや態度について」の項目では、概ね肯定的な回答が多かった。 ■次年度以降も授業公開を行い、職員間の学び合いの機会を継続的に設けるとともに、コロナ禍における対話的な授業展開の工夫を行う。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各教科の調査結果を見ると、各教科とも宇都宮市の平均正答率とほぼ等しい又は上回ったが、社会では「資料活用の技能」において、数学では関数の分野における「筋道を立てて論理的に説明する」において、英語では「表や図と併せて英文を読む」において課題が見られた。

次年度に向けては、

- ・友達との学び合い（ペア学習やグループ学習など）をとおして、自力解決を図る力を身に付けさせる。
- ・生徒一人一人がじっくりと課題に取り組めるような授業展開の工夫を行う。
- ・今後も継続して、考える力を育むための言語活動の工夫（話す活動、書いて伝える活動など）を他教科と連携を図りながら進めていく。

など、教科間で連携を図りながら、生徒一人一人の学力の向上を目指して指導していきたいと考えている。